

美術

美術科の目標はどう変わったのか。

今回の改訂では、表現や鑑賞の過程で働く資質や能力を明確にするとともに、それらが関連して働くように目標の改善を図っている。

【現行の学習指導要領】

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的能力を伸ばし、豊かな情操を養う。



【新学習指導要領】

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

生活の中の美術の働きや美術文化についての理解を深めることを一層重視した。

★ 新しい「中学校学習指導要領解説 美術編」における「美術文化についての理解を深め」についての記述は以下のとおりである。

「美術文化についての理解」を深めることは、今回の改訂で新たに加わった内容である。これからの国際社会で活躍する日本人を育成するためには、我が国や郷土の伝統や文化を受け止め、そのよさを継承・発展させるための教育や、異なる文化や歴史に敬意を払い、人々と共存してよりよい社会を形成していこうとするための教育を充実する必要がある。改正された教育基本法において、教育の目標に伝統や文化を尊重する態度を養うことが新たに規定され、各教科等でその充実を図っている。美術においては、古くからの美術作品や生活の中の様々な用具や造形などが具体的な形として残されており、受け継がれてきたものを鑑賞することにより、その国や時代に生きた人々の美意識や創造的な精神などを直接感じ取ることができる。それらを踏まえて現代の美術や文化をとらえることにより、文化の継承と創造の重要性を理解するとともに、美術を通じた国際理解にもつながることになる。以上のことから、美術科は文化に関する学習において中核をなす教科の一つであるといえる。